



インフルエンザ

尾田正仁[†] 森 伸晃

IRYO Vol. 75 No. 1 (89-93) 2021

【キーワード】 インフルエンザ, 迅速診断検査, PCR, ノイラミニダーゼ阻害薬, バロキサビル

はじめに

例年12月から1月にピークを迎えるといわれるインフルエンザであるが、2019年12月のCOVID-19の世界的な流行から2019年シーズンのインフルエンザは減少している。2020年も新型コロナウイルス感染症収束の兆しがなかなかみえない中で、南半球ではインフルエンザのピークが7-8月頃といわれているが2020年は極端に減少している¹⁾。本稿では主に成人における季節性インフルエンザについて述べていく。

インフルエンザの疫学

インフルエンザウイルスはオルトミクソウイルス科に属するRNAウイルスで、ウイルス内のタンパクによりA, B, Cの3つの型に分類される。A型はヘマグルチニンとノイラミニダーゼの抗原性の違いから複数の亜型に分類される。インフルエンザは温帯気候の地域では冬の間、熱帯地域では雨季の間に呼吸器疾患の季節的な発生に関連するウイルス感染症である。インフルエンザの季節的流行の理由ははっきりとはわかっていない。低湿度や低温などの

環境要因と悪天候時の登校や室内の混雑など、インフルエンザAおよびBウイルスの人から人への感染を容易にする社会的行動の組み合わせが関係していると考えられている。世界保健機関 (World Health Organization : WHO) によると、インフルエンザは毎年世界人口の25から30%が罹患し、300万人から500万人の重症患者と30万人から50万人の死亡者を出している²⁾。厚生労働省からの報告によると日本では年間1,000万人程度が罹患し、2,000人から3,000人の死亡者を出している。インフルエンザ後の肺炎などを含めると年間1万人前後が死亡している³⁾。

インフルエンザの症状

急性上気道炎、いわゆる風邪とインフルエンザの症状はどのように異なるだろうか。急性上気道炎の症状は一般的には鼻汁や咳嗽、咽頭痛の3つの上気道症状が同程度に出現することが多い。一方で、インフルエンザの症状は急性経過の高熱や頭痛、筋肉痛、倦怠感などの全身症状が目立ち、咳嗽や咽頭痛、鼻汁などの上気道症状をとまなう。全身性の症状が強いことがインフルエンザを急性上気道炎と鑑別す

国立病院機構東京医療センター 総合内科 †医師

著者連絡先：尾田正仁 国立病院機構東京医療センター 総合内科 〒152-8902 東京都目黒区東が丘2-5-1

e-mail : oda.masahito.zc@mail.hosp.go.jp

(2020年12月4日受付, 2021年2月19日受理)

Influenza

Masahito Oda and Nobuaki Mori, NHO Tokyo Medical Center

(Received Dec.4, 2020, Accepted Feb.2021)

Key Words : influenza, rapid-diagnosis influenza virus kits, polymerase chain reaction test, Neuraminidase inhibitors, Baloxavir